

一時帰国体験記



～3日間強制待機編～

ガルフストリームでは9月号で一時帰国の流れについて紹介しましたが、記事中でも触れたように8/5からはテキサス州が3日間強制待機の対象となりました。この措置は9/20で解除されましたが、本誌編集委員がちょうどこの期間中(9/2)に一時帰国しましたので、記録としてレポートします。

【出発前～日本到着まで】

出発前の準備については9月号でご紹介した流れと変わりません。事前に必要なのは出発72時間以内の陰性証明(所定フォーマット)、各種アプリのインストール、Webでの質問票の提出とQRコードの取得です。但しアプリの種類は変更される場合がありますので、常に最新の情報をチェックするようにしましょう。健康カード、誓約書は機内で配ってもらえます。

【空港にて】

到着後、搭乗便ごとにグループ分けされ検疫の順番を待ちます。通路上のパイプ椅子に座って待つのですが、検査時に唾液が汚れないよう飲食は禁止されています。1時間半ほど待ち、順番が来たら複数のブースを回りつつ受付、各種書類の提出、唾液による検査、アプリの確認などを済ませます。この流れも9月号で紹介したとおりです。

一連の手続きが済むと検査結果待ちとなります。2時間以上待たされた果てに係の人がやってきて「3日間待機の方は今から全員で移動します」とのこと。指定宿泊施設へのバスの本数が限られているようで、到着のタイミングによっては待ち時間が長くなるようです。

その後、集団でぞろぞろと空港内を移動。入国審査と手荷物の受け取り、税関申告を済ませてバス乗り場に移動します。搭乗機の着陸からバス出発までおよそ5時間。そこから待機施設まで2時間弱かかりました。

【待機施設】

待機施設は都内のビジネスホテルで、私の場合は両国のAPAホテルでした。喫煙者用と禁煙者用でホテルが分かれています(空港検疫の受付時に希望を聞かれます)。

ホテルに着いたらまず滞在中の注意事項や退所時の移動方法などの説明を受けます。「滞在のしおり」と体温計、お弁当を受け取ってようやく部屋に。家族連れ、特に小さなお子さんをお連れの方は大変そうでした。



▲中は普通のビジネスホテル。一歩も出られないことを除けばまずまず快適。

▶ドアノブにかけられたお弁当

さて、入所中の主なルールは以下の通りです。

- ・部屋からは一歩も出てはいけません。
- ・毎朝、体温を測ってWeb上で報告しなければいけません。
- ・部屋の清掃はありません。タオルなどは3日分用意されています。
- ・お酒を飲んではいけません。

食事は1日3回配膳されます。具体的にはお弁当とお茶か水のペットボトルの入った袋がドアノブにかけられています。中身はホテルの特製弁当の時と外部のお弁当屋さんの時がありました。

配膳のタイミングは朝食が7:30頃、昼食が12:00頃、夕食が18:00頃となっていますが、日によって大きくずれます。上記時間が近づくと「今から配食を開始します。完了するまで部屋を出ないでください」と館内放送があり、しばらくすると「配食が完了したのでお取りください」となるのですが、最長で1時間20分待たされました。なおゴミは袋に入れて部屋の外に出しておけば回収してくれます。

また毎日本体温を測ってWeb上で報告しますが、検疫所から指示された健康チェックと別にホテルにも報告が必要です。そんなこんなで3日目になると朝からコロナの検査を受けます。食事と同様、キットがドアノブにかけられるので自分で取り出して唾液を採取。回収は検疫官が個別に部屋を訪問してきますので手渡しします。

【退所、移動】

検査結果は午後に判明し、個別に連絡が来ます。なお「滞在のしおり」には退所バスの出発時間が16時頃と記載されていましたが、これは最終便の時刻で、結果判明した人から順次送り出されます。

今回の私の場合、14:30に電話連絡がありました。玄関前に停まっているバスに乗り込み、20人ほど乗車した時点で出発、成田空港に向かいます。私の場合、次の宿泊予定地が都内だったのでハイヤーをホテル前まで呼べたら効率的だったのですが、ホテルに迎えを呼ぶことはできません。徒歩での退所も不可で、問答無用で成田空港(第2ターミナル)に強制送還されます。なお空港内のターミナル間バスも公共交通機関という扱いになりますので、お迎えは退所バスの到着ターミナルに呼ぶようにしましょう。

3日間強制待機の報告は以上ですが、この後も11日間の待機が続きます。1週間以内に3度も検査で陰性を確認していますが、免除とはなりません。今後の改善を期待したいところです。(編集委員 鶴飼信)

写真特集 ～全9食一挙大公開～



検査証明メモ

日本に一時帰国する際には出国前72時間以内に検査を受け、アメリカに戻る際には出国の3日前以内に検査を受け、結果の証明書を提出する必要があります。

- ・日本帰国時の検査について

[商工会HP](#)に掲載された当地の検査機関をご参考にしてください。ただし、検査状況(証明書の発行の有無、検査時間について等)が変化しております。余裕を持って、各検査機関に電話などで連絡をして



必要事項の確認をお願いします。

また提出書類にはできるだけ自分で必要事項を記入してご持参することをお勧めします(名前等の記載ミスもあるようです)。

- ・アメリカ帰国時の検査について

検査機関は各航空会社や旅行会社、厚生労働省の[自費検査を提供する検査機関一覧](#)、[TeCOT](#)(厚生労働省と経済産業省が運営するセンター)などを参考にしてください。

※本記事の情報は11月15日現在のものです。ご自身の帰国に合わせて最新情報を必ずご確認ください。